

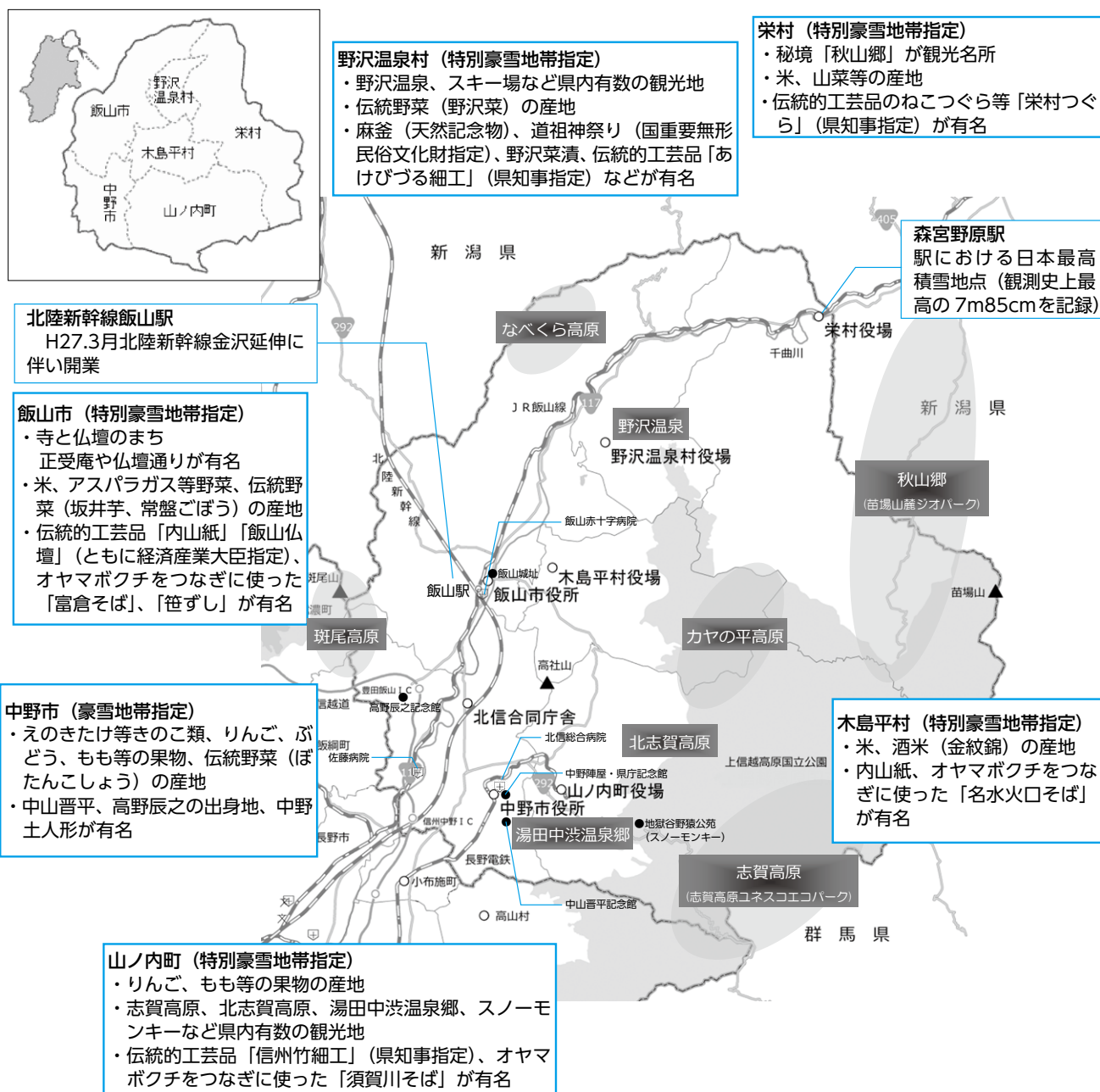
北信地域の特性

北信地域は、長野県の最北端に位置しており、中央を千曲川が流下し、高社山を境に北部は最深積雪が2mを超える全国有数の豪雪地帯となっています。

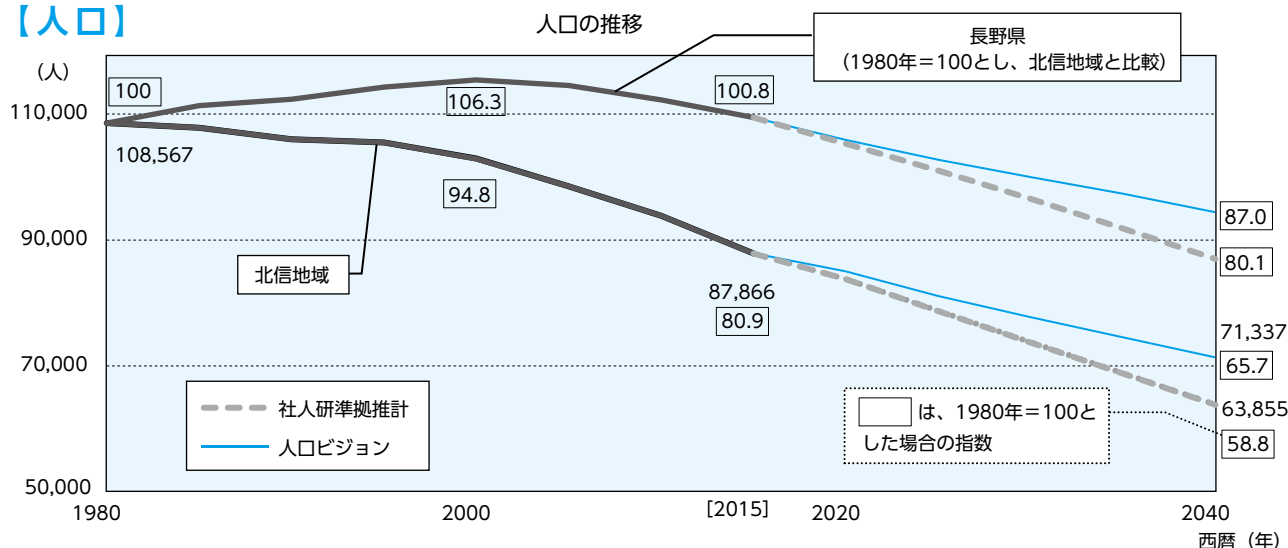
人口は、2017年（平成29年）4月1日現在、85,908人となっており、国立社会保障・人口問題研究所によると、2040年には63,855人まで減少すると推計されています。

この地域は、農業と観光が基幹産業となっており、県内有数の米、果物、きのこ等の産地であるとともに、志賀高原や斑尾高原など雄大な自然環境、湯田中渋温泉郷や野沢温泉など豊富な観光資源に恵まれた県内有数の観光エリアとなっています。

【管内の概況】

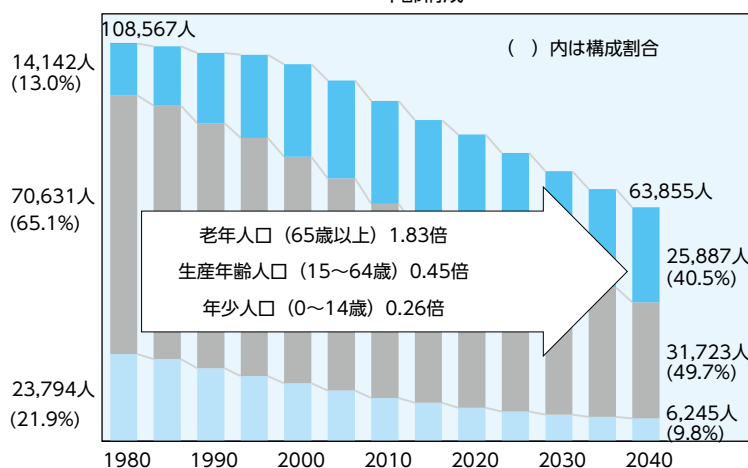


【人口】



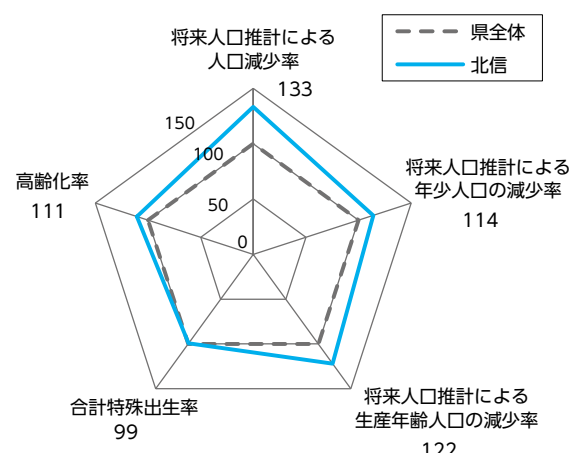
注) 2015 年までは国勢調査、2020 年以降は社人研準拠推計及び市町村人口ビジョン (地方創生総合戦略)

年齢構成



注) 2015 年までは国勢調査、2020 年以降は社人研準拠推計

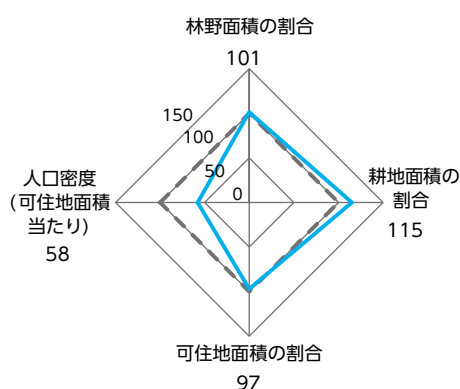
人口関係データの県全体との比較



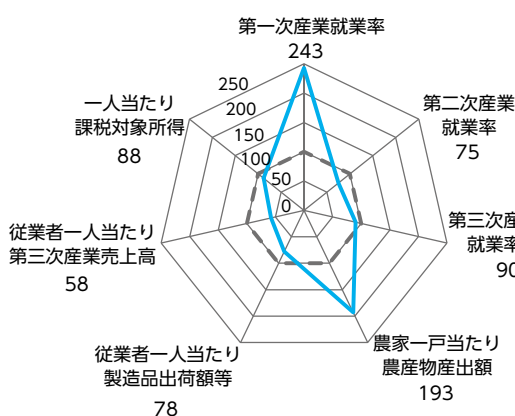
注) 長野県を 100 として北信地域と比較 (指数)

【産業・地勢】

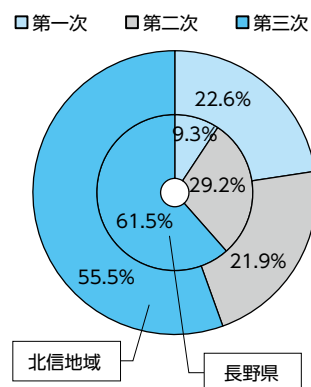
地勢データの県全体との比較



産業関係データの県全体との比較



北信地域の産業別就業率



人口については、県全体が 2000 年にピークを迎え減少していますが、北信地域は 1980 年以降、一貫して減少しています。また、年少人口と生産年齢人口は県平均を上回る減少率となっており、1980 年と比較した 2040 年の年齢構成割合は、老年人口は 2 倍弱、生産年齢人口は 5 割弱、年少人口は 3 割弱と推計されています。

産業については、第一次産業の就業率や農家一戸当たり農産物産出額が県平均を大幅に上回っている一方、第二次・三次産業の就業率や売上高等は県平均を下回っています。

雪とともに育む 豊かな故郷 北信州

- ・全国有数の豪雪地帯にあって、雪に強い生活基盤が整備され、年齢を重ねても安心・安全で健康な生活を送るとともに、地域住民が支え合い、子どもたちの声が響きわたる中で、絆と活気に満ちた故郷暮らしが実現している。
- ・雪や温泉、信越トレイル*、スノーモンキー*などの恵まれた観光資源を基に、「世界水準の山岳高原観光地」「日本の原風景と文化の『故郷』」が形成されている。
- ・米、果物、きのこなどの一大産地として発展するとともに、地元農産物の地消地産が進んでいる。

地域重点政策



1 若者定着のための雪に強い故郷暮らしプロジェクト

全国有数の豪雪地帯にあって、道路や生活エリアの除雪体制を更に整えるとともに、公共交通による移動手段を確保することにより、安心して生活できる基盤を創造します。また、地域の絆の中で郷土愛にあふれた子どもを育むとともに、一人多役など複線的なライフスタイルを発信し、移住者やまちづくりに取り組む者等を支援します。

これらにより、人口の自然減への歯止めと若者の定着を図るとともに、心豊かに人生を楽しむ故郷暮らしを創造します。

【現状と課題】

- ・人口減少と急速な少子高齢化により、中山間地域では集落機能が低下しており、次のような課題に対応していく必要があります。
- ・北信地域は、大規模工場や地域経済をけん引する高付加価値型の企業が少ないことから、人口を定着させるためには、若者にとって魅力ある雇用の場を確保することが重要です。
- ・人口減少対策として、各市町村において移住促進施策が行われているほか、飯山市岡山・瑞穂地域や山ノ内町湯田中・須賀川地域、栄村小湊区等では、地域資源を活用した稼ぐ取組や住民の絆を深める取組、移住者へのサポート等が行われており、地域全体にこのような取組を広げることが必要です。
- ・中山晋平、高野辰之の出身地であり、日本の原風景を唄った童謡・唱歌が歌い継がれるとともに、中野土人形や飯山仏壇など地域に根ざした伝統的な工芸品が数多く存在しています。こうした、地域の歴史・文化・技術等を今後も後世に伝えていく必要があります。
- ・近年は豪雪による交通障害、急速な高齢化や空き家の増加に伴い生活エリアの除雪が困難となる事例や除雪による事故が多発しており、豪雪に対応できる道路除雪体制の確保と安全な生活エリアの除雪の仕組みづくりが求められています。
- ・マイカー利用が進み、民間のバス路線数や運行本数が減少する中、各市町村では、買い物や通院・通学の移動手段の確保のため、デマンドバス*等の運行や観光利用も含めた生活交通路線の確保に取り組んでいます。さらに、より効率的に市町村域を跨いで、病院、商業施設等をつなぐ公共交通の運行が求められています。

【取組内容】

①子育ての支援と子ども・若者の郷土愛の醸成

- ・若者の出会い・交流の機会を広げるための支援を行うとともに、妊娠時からの切れ目ない母子保健の取組や子どもの居場所づくりの推進により、地域の絆の中での子どもの育みを支援します。
- ・学校教育等において、地域社会や産業界と連携し、地域の歴史・文化・産業等の探究的な学びを推進します。

- ・飯山仏壇や内山紙、ねこつぐらなどの伝統的な工芸品をつくる後継者の確保・育成を促進します。また、伝統的な工芸品の商品開発や技法などの新たな展開を通して、伝統文化の発信を行うとともに、地域の子ども・若者の郷土愛を醸成します。

②若者定着のための就労の場の拡大

- ・観光産業や食品産業等の地域の特性を生かした分野に加え、ICT*等の成長期待分野の企業を支援することにより、その集積を促進します。また、魅力ある産品やサービスの開発・販路開拓など地域の活性化につながる事業の展開や起業を支援することにより、若者が定着できる就労の場の確保を促進します。
- ・「夏雇用×冬雇用×住居」等の一人多役の働き方をテーマとした若者と企業のマッチングや、大学生の就労体験などを推進することにより、観光業をはじめとする地域産業の人手不足の解消を促進します。
- ・飯山市と中野市で本格的に始まった農福連携の取組を推進することにより、障がい者の就労の場を拡大し、自立と社会参加を促進します。

③ライフスタイルの発信と移住・交流・まち（むら）づくりの推進

- ・「夏の農業従事×冬のスキー場勤務」「農業×まちづくり活動」「宿泊業×アウトドアスポーツ」など、北信地域ならではの「一人多役型ライフスタイル」に関する情報を発信し、この地域の魅力を伝えていきます。
- ・移住者や二地域居住者、まちづくりに取り組む者を市町村と連携しサポートするとともに、移住体験の取組への助成等、移住者等を受け入れる地域を支援します。
- ・野生鳥獣を集落へ近づけないための総合的な被害防除対策を推進するとともに、地域の取組を支援することにより、安心・安全な生活基盤づくりを進めます。

④雪に負けない、雪を楽しむ暮らしづくり

- ・道路除雪に関する住民等への広報や市町村等との連携などにより、豪雪に対応した体制を確保します。
- ・市町村と連携した除雪の安全対策講習会の開催や、住宅除雪支援事業の充実等、過疎化や少子高齢化に対応した生活エリアの除雪の仕組みづくりを検討します。また、関係団体との共催による住宅改修相談会等を開催するなど雪国住宅の普及を進めます。
- ・地域用水を活用して消雪を行う水路の整備に向けて、既存制度等を総合的に検討するとともに、活用可能な補助制度の紹介や水利権調整の助言等の支援を行います。
- ・豪雪地帯ならではの「雪遊び」や「かまくら村」など観光資源としての雪の活用や、農畜産物や加工食品の雪中貯蔵・雪室熟成による高付加価値化に向けた研究に取り組みます。また、住宅の雪囲い・冬期間の保存食等の雪国暮らしの知恵を学ぶ機会を設けること等により、雪を楽しむ暮らしづくりを推進します。



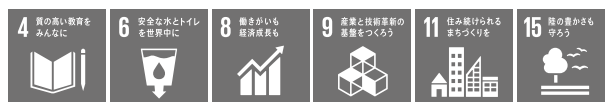
かまくらの里

⑤雪国の生活を支える公共交通・医療等の生活基盤の整備

- ・広域的な公共交通の調整組織を設置し、市町村域を越えたバス路線等の調整を行うとともに、ICTを活用したモデル的なデマンド交通の実証実験を行うなど、公共交通の多様な効率化の手法を検討します。
- ・保健師、管理栄養士及び栄養士、食生活改善推進員、保健指導員等の管内研修会において、普及担当者の技量向上を図り、冬期間の高齢者の介護予防や減塩等の食生活の改善など健康づくりを推進します。
- ・病院機能の特長に応じた機能分化と連携について、管内3病院や関係市とともに、実現に向けて協議を進めます。

【達成目標】

指 標 名	現 状	目 標	備 考
社会増減 毎月人口異動調査（企画振興部）	△ 456 人 (2017 年)	△ 171 人 (2022 年)	管内市町村における転出入の差の合計 (国外移動、職権更正を含む) [2025 年での転入・転出均衡をめざすこ とを目標に設定]
移住者数 (企画振興部調)	142 人 (2016 年度)	198 人 (2022 年度)	新規学卒 U ターン就職者や数年内の転出 予定者などを除く県外からの転入者 [県全体の目標をもとに設定]
創業・立地件数 (産業労働部調)	16 件 (2012 年～ 2016 年 累計)	増加 (2018 年～ 2022 年 累計)	創業及び新規開業認定件数と工場用地の 取得件数の合計 [現状を上回ることを目標に設定]
除雪作業中の事故件数 (危機管理部調)	23 件 (2016 年度)	減少 (2022 年度)	雪害報告のあったもののうち、除雪作業 中の事故に係るものの件数 [現状を下回ることを目標に設定]



2 「信越自然郷」等通年型広域観光推進プロジェクト

信越 9 市町村の連携による広域観光エリア「信越自然郷」をはじめ、北信圏域・長野県域を越えた広域においてグリーンシーズンの観光誘客を促進する取組を強化することで、冬期間にとどまらない、通年型の稼げる観光地域づくりを推進します。

【現状と課題】

- 管内には、志賀高原、北志賀高原、斑尾高原、カヤの平高原などの山岳高原や、秋山郷、なべくら高原、湯田中渋温泉郷、野沢温泉といった自然や癒しが満喫できる里山や温泉などの恵まれた観光資源が豊富に存在します。これらは、唱歌にも歌われている日本の原風景を形成しています。
- この地域は、スノーシーズンを中心に大勢の観光客でにぎわいますが、観光客数は、近年横ばいで推移しており、特にグリーンシーズン期の観光客数は伸び悩んでいます。このため、観光施設は季節雇用に偏りがちで、特に冬場のスキー場等は、人手不足が深刻化しており、地域観光の通年化を一層推進することが必要です。
- 「信越自然郷」や「雪国観光圏」は、観光庁が認定した広域観光周遊ルート「東京圏大回廊」にも位置付けられており、スノーモンキー*や野沢温泉・湯田中渋温泉郷の温泉街、かまくら村を中心に外国人観光客が増加傾向であることから、今後もインバウンド*への対応が必要です。
- 信越 9 市町村広域観光連携会議による広域観光エリア「信越自然郷」が形成されていますが、更に地域が一体となって取り組める体制作りが急務となっています。また、他の広域的な枠組みによる連携も必要です。

【取組内容】

① 観光地づくりと圏域・県域を越えた広域観光の促進

- 志賀高原ユネスコエコパークや苗場山麓ジオパークなど個々の観光地づくりを支援するとともに、「信越自然郷」や「雪国観光圏」、長野電鉄・JR 飯山線沿線の市町村連携など、北信圏域や長野県域を越えた広域観光連携を支援し、地域一体となった体制づくりを推進します。

② 稼げる通年型の観光地域づくり

- 信越トレイル*をはじめとするトレッキングや、森林セラピー®*、千曲川周遊サイクリングやカヌーな

どのアウトドア観光が、更に充実するよう、支援・促進します。

- ・中山晋平や高野辰之の唱歌の世界、飯山市の寺町や小菅地区等の神社仏閣など、地域の歴史・文化を巡る周遊ルートづくりなどを支援・促進します。
- ・スキー、スノーボード、「雪あそび」(スノーシュー等)、「かまくら村」等、雪国ならではの雪を活用した取組「豪雪G_O遊」を推進します。
- ・ぶどうなどの果物、米、野菜、きのこ、そばをはじめとする地域の農産物や特産品などの「食」や「食文化」をテーマにした観光「ふーどツーリズム」を推進します。

③必要な観光人材の確保

- ・インバウンド*に対応でき、おもてなしのできるガイドなどの観光人材を確保・育成します。
- ・北信地域ならではのライフスタイルの魅力発信や、観光業への就労を希望する若者の就労体験等の支援により、冬場の観光産業等の労働力不足の解消に取り組みます。

④観光振興のための環境整備

- ・鉄道・幹線道路沿いや温泉街の景観整備、森林セラピー®基地の充実など、再訪したくなる快適な観光地づくりを支援・推進します。
- ・屋外観光スポットのWi-Fi環境や統一案内看板の設置、道の駅のトイレ整備、両替やクレジットカード対応などインバウンドに向けた整備を支援・推進します。

⑤交通拠点と観光地を結ぶ二次交通の整備

- ・北陸新幹線飯山駅からカヤの平高原や秋山郷を結ぶルートや、志賀高原、白馬、野沢温泉などの圏域内外の複数の観光地をつなぐルート等を広域周遊バスで結ぶなど、二次交通の整備を促進します。



野沢温泉スキー場



なべくら高原のブナ林



スノーモンキー



志賀高原

【達成目標】

指 標 名	現 状	目 標	備 考
観光地延利用者数 観光地利用者統計調査（観光部）	691 万人 (2016 年)	719 万人 (2022 年)	管内観光地を訪れた日帰り客、宿泊客の延人数 [過去 5 年間の伸び率の最大値（4 %）を目標に設定]
春季から秋季の観光地利用者数	383 万人 (2016 年)	400 万人 (2022 年)	上記のうち 4 ～ 11 月の延べ利用者数
冬季の観光地利用者数	308 万人 (2016 年)	319 万人 (2022 年)	上記のうち 12 ～ 3 月の延べ利用者数
観光消費額 観光地利用者統計調査（観光部）	361 億円 (2016 年)	376 億円 (2022 年)	管内観光地内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の総計 [過去 5 年間の伸び率の最大値（4 %）を目標に設定]



3 「米・果物・きのこ」産地パワーアッププロジェクト

地域農業の強みである米・果物・きのこ等の安定的な生産供給、高品質化の追求、安全・安心な農産物生産などを支援し、高い市場競争力を確保します。あわせて、地元農産物の食材利用・「地消地産*」を推進します。

【現状と課題】

- ・米・食味分析鑑定コンクールで上位入賞するなど県内有数の良食味米産地ですが、需要に応じた収益性の高い米生産が必要です。
- ・日本有数の生産量を誇るシャインマスカット等のぶどうをはじめ、りんご、もも、すもも、さくらんぼなど果物の総合産地です。有望な新品種の導入や長期出荷などにより市場競争力を確保することが重要です。
- ・日本有数の栽培きのこの産地で、特にえのきたけは日本一の生産量を誇ります。市場価格の低迷等の課題に対応し、経営管理力や産地の信頼性を高めることが重要です。
- ・アスパラガス・シャクヤクの産地であるほか、ぼたんこしょう、野沢菜、坂井芋、常盤ごぼう等の県を代表する伝統野菜の栽培や畜産業も行われていますが、生産安定と販路拡大が課題となっています。
- ・農業者の高齢化等が進み、担い手不足による生産力低下が懸念されます。
- ・地域に多くある味噌、醤油、酒などの醸造蔵から有用な乳酸菌が発見され、新製品の開発が進められています。これら有用な乳酸菌等を効果的に活用するための技術確立し、新製品の開発・応用につなげていくことが重要です。

【取組内容】

① 強みのある農産物の生産・販売

- ・需要に応じた米生産を基本に、「幻の米」等の良食味米、中食・外食用の業務用米、「金紋錦」「山恵錦」等酒米の生産拡大と認知度向上を進めます。
- ・りんご、ぶどう、すもも等果物の県オリジナル新品種の導入・拡大と、シャインマスカット・シナノスイート等の人気のある果物の生産、大都市圏等への販売を強化します。



シャインマスカット

- ・えのきたけやぶなしめじ等の産地の信頼性をより高めるJGAP*取得を進めるとともに、おいしさと機能性を消費者に訴求することにより、大都市圏等への販売を強化します。
- ・アスパラガス、ズッキーニ、シャクヤク等の特産品目や、ぼたんこしょう等の地域の特色ある伝統野菜、肉牛・養豚等の地域ブランド畜産物の生産安定と販売を強化します。

② 地元農産物の魅力の共有・発信と地消地産の推進

- ・観光客や地域住民等への地元農産物の販売拠点となる農産物直売所の機能を強化します。
- ・おいしい信州ふーど*・地元農産物の魅力の共有と県内外への発信を推進します。
- ・飲食店、宿泊施設、学校給食センター等における地元農産物の地消地産を推進します。とりわけ、食育の観点からも地元農産物の利用を促進します。

③ 農業後継者等担い手の確保・育成

- ・企業的経営者や認定農業者など中核的経営体の経営向上を図るほか、「北信州農業道場」により稼げる農業経営をめざす経営体を確保・育成します。
- ・繁忙期等の労働力不足を補うためのサポート体制構築と、Ｉターン新規就農者や親元就農者などを適切に支援し、多様な労働力の確保・育成を推進します。

④ 地域資源を活用した食品の開発とエネルギー利用の促進

- ・味噌、醤油、酒などの発酵技術を活用し、健康長寿を意識した食品の開発・応用に注力する食品産業の集積を、長野地域とともに、産学官金の連携によって促進します。
- ・きのこの生産に伴って大量に発生する廃培地について、農家や市町村による再生利用やエネルギー源としての利用を促進します。

⑤ 雪中貯蔵・雪室熟成の研究

- ・農畜産物や日本酒等加工食品の雪中貯蔵・雪室熟成による高付加価値化に向けた研究を進めます。



木島平村の田園風景



地域食材の魅力アップ講座



北信州農業道場アスパラガスコース

【達成目標】

指標名	現状	目標	備考
果樹戦略品種等の栽培面積 (農政部調)	253ha (2016年度)	460ha (2022年度)	シャインマスカット、リンゴ長果25、スモモ長果1などの集計値 [りんご、ぶどう、すももの栽培面積目標の積み上げにより設定]
良食味米、業務用米等の栽培面積 (北信地域振興局調)	535ha (2016年度)	650ha (2022年度)	幻の米、村長の太鼓判、金紋錦などの集計値 [市町村等の栽培面積目標の積み上げにより設定]

